〔類聚名義抄九羊〕羊芊今正音陽、ヒツシ養、善羊チヒツシ　羷奴頭反、羝羷胡羊、細毛羊、羯羝羷俗ヒツシ　羷音歷ヒツジ

羝羷俗　羒羒今正音沂、牝羊、メヒツシ　羯或正擧謁反、殺羊ヒツシ、　羯ヒツシ　羔ヒツシ

〔八雲御抄三下獸〕羊　ひつじのあゆみとは、物をまつたとへなり、いかなりとも始終有と云り、

〔日本釋名中獸〕羊　ひつじの時は、日の天にのぼりて西へさがるつじ也、日本にもとより羊なし、後代にもろこしより渡りし時、十二支の未の時の意を以て訓とせり、

〔南留別志二〕一虎をとらといふ、羊をひつじといふ、此國になき物なれば、和名あるべきやうなし、とらは朝鮮語なりといふ、さもあるべし、ひつじも異國の詞なるにや、

〔本朝食鑑十一獸〕羊

集解、近世自華來、世未蓄息、其狀頭身相等、而毛短、惟一兩公家牧之、至數十頭、故人亦食之者希矣、儘有食之者、謂肉軟味美、而能補虛、予○平野必大不食之、則未詳其主治也、牧家戲令與紙食、羊喜食紙、然非常食、而童翫爾、

肉、氣味、古謂甘大熱無毒、素問云、若蘇頌論之、李時珍載禁忌、主治、補五勞七傷、然予未試之、惟據俗稱也、

〔本草綱目譯義五十獸〕羊　ヒツジ

是ハ和產ナシ、唐デヤシナイ食物トス、犧ナドニモスル也、京ニナシ、舶來ノ物ヲ用ユ、長崎ニアリ、後大和本草ニ處々海頭ニハナシガイデアルト云、大抵馬ノ形ニシテ小也、犬ヨリ大也、

〔重修本草綱目啓蒙三十三畜〕羊　ヒツジ和名鈔

一名、胡髯郎、述異記　青鳥同上　卷婁仇池筆記　髯鬚主簿古今注　髯鬚參軍中華古今注　髯主簿典籍便覽　獨笋子事物紺珠　主人　髯郎　忽魯罕共同上羔蒙古ノ名　氈根事物異名　餼牽　白石道人　忽爾共同上蒙古ノ名　羶離菜類書纂要　羶根通雅　羔兒訓蒙字會羔　肉一名、肥羒、事物異名　肥腔　羒味　羸畜共同上人ニ贈名　膽一名、百草精、秘方集驗　脂一名、味物脂、石藥爾雅

唐山ニテハ畜テ食用ニ供ス、本邦ニテハ京師ニハ畜フモノナシ、他州ニハ畜フ處モアリ、皆漢種